

本 部 企 画

〈シンポジウム〉

「人に向きあうソーシャルワーク ～さまざまな領域から今の日本の福祉を考える～」

通信教育科准教授 佐 竹 要 平
社会福祉学部福祉援助学科教授 下 垣 光
福祉マネジメント研究科教授 古 屋 龍 太

贅川 皆さま、おはようございます。定刻の10時になりましたので、ただ今より社大福祉フォーラム2019、第58回、日本社会事業大学社会福祉研究大会を開始いたします。本日、全体の進行を務めます、学会の事務局長を担当しております社会福祉学部教員の贅川と申します。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

この社大福祉フォーラム2019はもともと日本社会事業大学社会福祉研究大会という名前で始まりまして、今回で第58回目を迎えることとなります。今回のテーマは、『人に向き合うソーシャルワーク、今の日本の福祉を考える』というテーマでございます。このメインテーマ『人に向き合うソーシャルワーク』は昨年度から引き続きメインテーマに据えているものであります。人と向き合うソーシャルワークといいますが、福祉に関わっている方であれば、何を当然のことを言っているのかと思われるかもしれません。しかし果たして本当にそれができているのか現状の課題にきちんと向き合いながら、あらためて人に向き合うソーシャルワークとは何なのかということを考えていきたい、そういう趣旨で設定をしております。

『今の日本の福祉を考える』というサブテーマにつきましても、ちょうど平成から令和に元号が変わりまして、元号が変わったから何が変わるのかというのはございますが、あらためて平成の福祉を振り返って、その現状と課題に目を向けながら今後を展望するということができるといいなとい

う思いで、このテーマが設定されております。本日、明日と2日間にわたって学内学会を開催してまいりますので、このテーマの下にぜひ、皆さんとともに考えていただくと考えております。

それでは、学内学会の会長であります本学学長、神野先生より開会のあいさつをお願いいたします。

神野 日本社会事業大学の学長を務めております、神野でございます。よろしくをお願いいたします。司会の贅川先生からお話がありましたように、社会福祉フォーラム2019、開催いたしましたところ、多数の皆様方にご来場いただきまして本当にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

このフォーラムは日本社会事業大学が組織しております日本社会福祉学会の年に一度の研究大会ということになっておりまして、今年で58回を数えております。年に一度の研究大会でございますので、在校生だけではなく、卒業生等々、学会員の皆さまにお集まりいただいております。その他に広く社会に開かせていただいておりますので、地域の皆さまがたとか、社会福祉にご関係の皆さまがたにもおいでいただいております。フォーラムというふうになを付けているのは、そういう趣旨でございます。

今も贅川先生からお話がありましたように、改元されて平成から令和になりました。外務省の正

式な英訳では、令和は Beautiful Harmony、「美しき調和」というふうに英訳されることになっております。平成が Achieving Peace ですので、「平和の達成」から「美しき調和」へというのが改元の名前のようでございます。そういう観点から30年の平成の社会福祉および社会を省察しながら、この研究大会では福祉の未来、新しい未来を省察するというで開催をすることにしております。

こういう行事を開催するにあたって、私どもは天気を心配いたします。幸いなことに、学会でございますので、ほぼ室内で完結するというにはなっておりますが、皆さまがたのおいでいただくときとか、お帰りのときに天気が悪いとご不自由やご迷惑をお掛けすることを心配しておりました。予報ではあまり良くないことになっていて、6月は水無月、水がない月、あるいは風なき月、恐らく夏の初夏のさわやかな風を待つという意味だろうと思いますが、そういわれておりますけれども、本日はこれから荒れるという予測になっております。この大会が本日、終わるまで天候が持ってくればというふうに願っております。本日だけではなく、本日と明日の日曜日も開いておりますので、ご参加していただいている皆さまがたには、万障繰り合わせて2日間のご参加と、それから、現在の日本では社会福祉はかなり大きな政策課題になっておりますので、それを共に考える機会にいただければというふうに願っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。本日はご参集くださりまして本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げる次第でございます。どうもありがとうございました。

贄川 神野会長、ありがとうございました。それでは早速、プログラムの中身に入ってまいりたいと思います。1本目の本部企画シンポジウム、『人に向き合うソーシャルワーク、さまざまな領域から今の日本の福祉を考える』について、いきたいと思います。

贄川 すみません、今、学長が移動中のようにあります。時間になっておりますので、このシンポジウムの座長を担当いたします、私、贄川より、まず、このシンポジウムの趣旨説明をさせていただきたいと思います。タイトルは先ほど申し上げたとおりであります、このセッションの位置付けにつきましては幾つかの意図といいますか、視点がございます。一つは本学教員からの発信という位置付けでございます。人に向き合うソーシャルワークというのを考えるにあたって、本学ではさまざまな多くの教員が各部門で教鞭を執り、研究を進めております。一つ、本学の教員がどうしているのか、本学教員からの発信というのをもっと聞きたいというご意見もいただきまして、シンポジストとして通信教育科の佐竹先生、社会福祉学部の下垣先生、それから専門職大学院福祉マネジメント研究科の古屋先生のお三方にシンポジストとしてご登壇いただくことになりました。

それぞれの先生は通信教育科、社会福祉学部、専門職大学院とそれぞれのセクションでご活躍いただいているところではありますが、子ども家庭福祉分野、高齢者福祉分野、精神保健福祉分野と、それぞれ領域でご活躍をされております。各部署の先生、それから各領域で取り組んでいるという視点から、今のそれぞれの領域における、日本の福祉の現状と課題、それから今後についてお話をいただき、メインテーマである『人に向き合うソーシャルワーク』について考えていくというふうに考えています。

それでは、まずは佐竹先生からご報告いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。